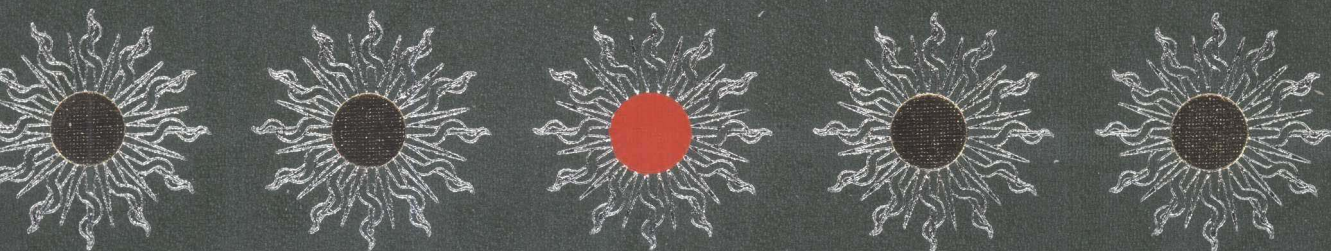

JAPONICA



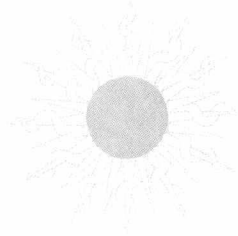
2



ENCYCLOPEDIA
JAPONICA



大日本百科事典



9

SHOGAKUKAN



ENCYCLOPEDIA JAPONICA

大日本百科事典

ジャポニカ - 2

© 株式会社 小学館 1980年

昭和43年 3 月 5 日 初 版 1 刷発行
昭和55年 5 月 1 日 新 版 1 刷発行

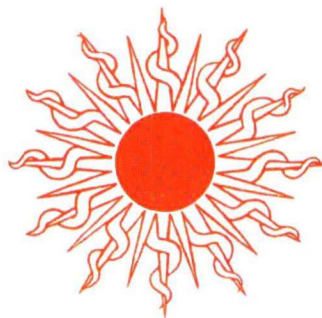
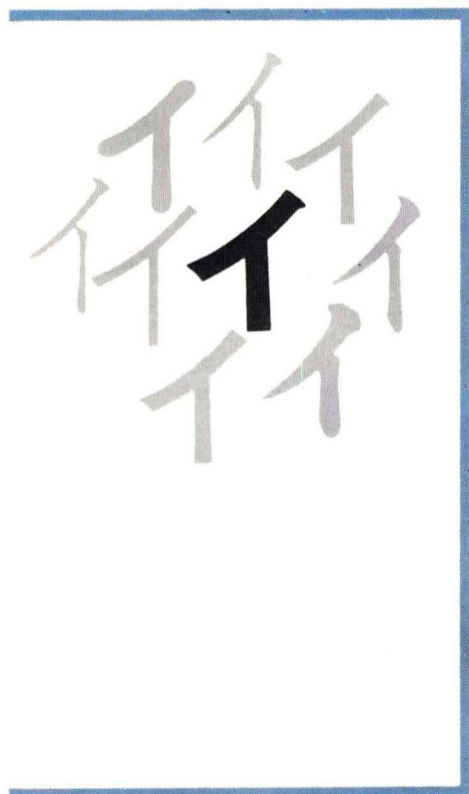
振替	電話	郵便番号	発行所	印刷者	編集者兼 発行者
東京 八 一 二 〇 〇 番	編集・東京 〇三 一三 〇五 五六 二〇 製作・東京 〇三 一三 〇五 五六 二〇 販売・東京 〇三 一三 〇五 五六 二〇	東京都千代田区一ツ橋二ノ三ノ一	株式 会社 小 学 館	澤 村 嘉 一	相 賀 徹 夫
製 本	表紙 特製色箔用	特 ク ロ ス 抄	ア 特 ー ト 紙抄	コ 特 ー ト 紙抄	印 刷
凸版印刷株式会社	独逸顔料工業株式会社	ダイニツク株式会社	三菱製紙株式会社	王子製紙株式会社	凸版印刷株式会社

本書に掲載した地図は、建設省
国土地理院発行の2.5万分1地形
図、5 万分 1 地形図、20 万分 1
地勢図及び50 万分 1 地方図を使用
して調製したものである

本書に掲載した三訂補日本食品標準成分
表の転載または複製は、科学技術庁の事
前の承認が必要です。照会先は、同庁計
画局資源課 電話03-581-5271 (代表)

造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁な
どの不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan



石川啄木書

五十音図ア行・ヤ行の第二音で母音の一つ。音声記号は「i」。ひらがな「い」は「以」の草書体、かたかな「イ」は「伊」の偏イにもとづく。「い」がウシの角の形に似ているところから、「牛の角文字」といいたえた例が『徒然草』に見える。五十音図ワ行第二音の「ゐ」は、もと「wi」の音であったが、平安時代の半ばごろから起こった音韻変化によって「i」に転じ、「い」と同音になった。ひらがなの「ゐ」は「為」の草書体、かたかな「キ」は「井」の全画の変形、現代かなづかいでは、用いていない。〈畠山義利〉

イ イグサ

亥 い (1)十二支の第一二番め。十二支獣としてはイノシシがあらわれる。(2)方位としては北北西の方角をさす。(3)季節では一〇月、冬のはじめにあたる。西日本では一〇月(亥月)亥の日に亥の子という儀礼をおこなう風習がある。(4)昔の時刻の名で、今の午後一〇時前後にあたる。「亥中月」というのは、亥の中刻つまり今の午後一時ごろに出る月の意から陰暦二〇日の月をいう。↓十干十二支↓陰陽道

胃 い 消化管の一部で、食道と小腸(十二指腸)との間で嚢状にふくらんだ部分という。胃の形状・大きさは、胃が食物で充実しているかどうか、あるいは体位・個人などの差異によって異なってくる。内容が充実した場合の胃では、直立位と座位の場合、レントゲン像でみると多くの場合鉤形をしている。内容が空虚な胃や、解剖したときの胃は収縮した状態が多く、ときには中央部がくびれて砂時計のような形を示す。

〈野田幸三郎〉

胃の全体的な位置は、中等度で内容が充実してふくらんでいる場合は、胃全体の六分の五がからだの正中線からやや左側によっており、胃の狭く細い部分が右側にある。すなわち胃の長軸は上左方から下右方に傾いている。胃の大きさは、成人では約一五〇〇ccの容量を有し、日本人の成人の平均容量は、男で一四〇七・五cc、女で一七五・〇ccである。

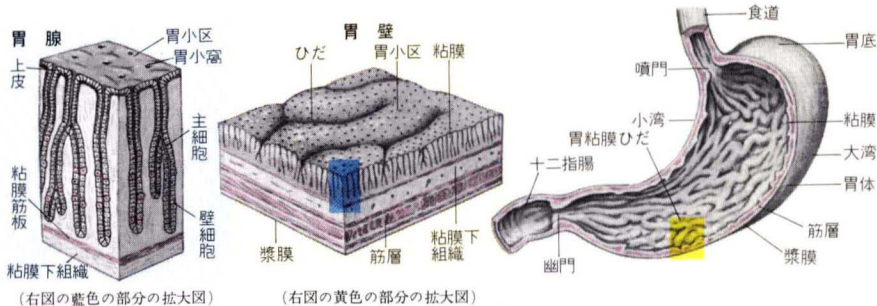
【胃の構造】食道から胃に移行する胃の入り口の部分を噴門といい、噴門部から急に内腔が広がるが、この広がった左側のふくらみを胃底という。胃底から大きな嚢状の胃体に移

る。胃の大部分はこの胃体部が占め、ついで出口に向かって細くなる。この部分は管状の幽門部で、幽門をへて十二指腸につづく。幽門の内面では粘膜が輪状に高まっている。胃には二つの縁と二つの壁がある。前上方を向いている前壁と後下方を向いている後壁があり、両壁は上方および下方で互いに移行し、それぞれ上縁と下縁をつくる。上縁は、上方に凹形で小湾といい、下縁は下方に凸形で大湾という。大湾のほうが長い。小湾・大湾には腹膜の一部が付着していて、小網および大網と呼ぶ。胃全体としては胃底頂がもっとも高位にあり、噴門よりも高い。大湾の下部はもっとも低い。噴門は幽門より高い。

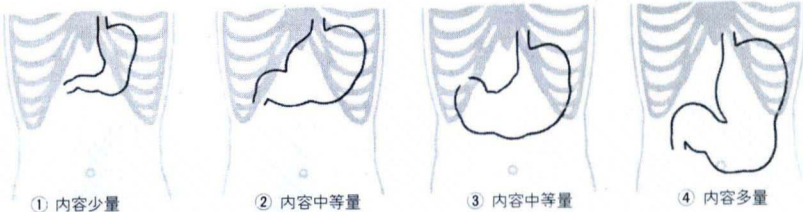
胃と周囲臓器との関係を見ると、胃底は横隔膜の左下面に接し、脾臓・肝臓左葉にも接している。噴門・小湾・幽門部は肝臓左葉におかれ、幽門部は胆嚢・十二指腸とも接している。大湾の一部は横行結腸におわれている。胃の後方には、脾臓・左腎・左腎上体(副腎)がある。胃の前壁が、肝臓と左肋骨弓と横行結腸の間で前腹壁と直接接する部分を胃三角という。噴門は第一〇〜一二胸椎の高さにあり、これはちょうど左第七肋軟骨と胸骨の結合部の高さである。幽門は第二胸椎から第一腰椎体の右側の高さである。

胃壁の構造は、内側から粘膜・筋層・漿膜と配列している。粘膜は胃の内容物が少なく、収縮状態の場合には、多数の胃の長軸方向縦走ひだ(胃粘膜ひだ)がみられ、さらにこの粘膜ひだをつらねる短いひだがある。これらのひだは胃が拡張すると消失する。しかし、小湾に沿って存在する三〜四条のひだは消えないで、胃内の液状物を十二指腸に向けて流す役割をする。粘膜の表面には二〜三mmの凸面がある。これを胃小区といい、さらに胃小区の内側に無数の胃小窩がある。胃小窩の底部に胃腺が数個ずつ開口する。胃粘膜の胃腺には固有胃腺と幽門腺とがある。胃腺は胃小窩の底で、粘膜上皮が深く粘膜固有層に進入してきたもので固有胃腺は、胃底と胃体に分布する。固有胃腺を構成する細胞には、主細胞・副細胞・旁細胞(壁細胞)がある。主細胞は胃腺の大部分を構成し、胃液原素(ペプシノーゲン)および凝乳酵素を含む。副細胞

胃の構造 (断面模式図)



胃の形態各種



胞は胃小窩に近い腺頸部に存在し、粘液物質を含む。壁細胞は腺全体にあるが、とくに腺頸部に多数存在し、塩酸分泌をするといわれる。幽門腺を構成する細胞は一種類で、副細胞に類似して粘液様分泌物を含む。このほか噴門部には噴門腺がある。筋層は平滑筋で三層に配列している。内側から斜繊維・輪層・縦層の順である。斜繊維の分布は不完全であるが、食道内層筋の一部のつづきで噴門から斜めに分散する。しかし幽門までとかなない。輪層はもっとも發育がよく、ほぼ平均した厚さで胃の長軸に輪状に走っている。とくに幽門では、強い輪状の幽門括約筋を形成し、幽門口を取り囲んでいる。縦層は食道縦筋層の

連続で胃に放散している。胃底で弱く、小湾・大湾では強い。幽門の前側と後ろ側では厚い帯状をつくる。胃の最外側は漿膜で、これは腹膜の連続である。胃全体をおおひ、小湾・大湾でそれぞれ小湾・大網に移行する。胃の血管は小湾をとおり右および左胃動脈と、大湾をとおり右および左胃大網動脈・短胃動脈からの細かい分枝が分布している。右胃動脈は肝動脈から、左胃動脈は腹腔動脈から分かれてきている。右胃大網動脈は、胃十二指腸動脈の枝(このものは総肝動脈)で、左胃大網動脈・短胃動脈は脾動脈から分かれる。胃からの静脈血はすべて内脈に注ぐ。胃壁に分布しているリンパ管とそれが注ぐリンパ節は、胃の腫瘍などの場合、腫瘍細胞に対して関所のような役割をするから、胃のリンパ節の配置を知ることが重要なことである。胃のリンパ管は、上下網リンパ節・噴門リンパ節・脾リンパ節・幽門上下リンパ節・肝リンパ節にはいる。胃への神経は迷走神経の胃神経叢および交感神経の胃神経叢が支配をしている。とくに胃の前壁には左側の迷走神経から、後壁には右側の迷走神経から枝がきいてくる。

〔胃の作用〕胃内にはいった食物は、まず飲み込んだ順に層をなしてたくわえられ、二〇〜二六秒に一回の割合で起る蠕動によってしだいに幽門部に達し、ここの強い攪拌運動によって胃液と十分に混じる。こうして塩酸の作用で食物が酸性になると、唾液のどんぶん糖化作用がとまり、胃液による消化が始まる。ペプシノーゲンからつくられたペプシンは酸性のときにだけよく作用するが、唾液素や腸内に分泌される消化液中の酵素はすべてアルカリ性でなくては作用しない。食物中のたんばく質はペプシンの作用でペプトンに分解され、食物はかゆのようなものになる。これを糜粥(じしやく)といい、酸性をおびている。幽門をときどき開いて糜粥をすこしずつ十二指腸へ送りだす。ペプトンに分解されたたんばく質は、さらに分解されてアミノ酸になる。

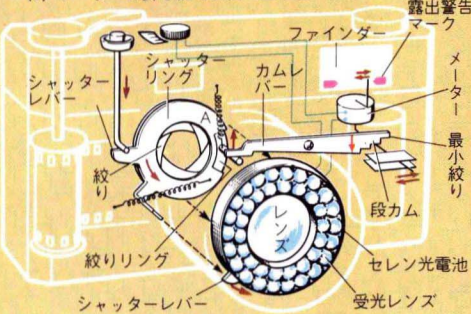
胃は食物を三〜五時間かかって消化し、十二指腸へ送るが、吸収はほとんどしない。ただし、アルコールだけは胃内でもよく吸収され炭酸の吸収もおこなわれるという。↓胃液〔胃の病氣〕胃液中の遊離塩酸が多すぎるとしばしば胃酸過多症を起し、胸やけや胃痛を訴える。これは食べすぎや刺激性の嗜好品の乱用などから起り、ときに胃潰瘍を誘発することがある。日本人はその食事習慣から胃の負担を大きくしがちで、胃癌をはじめ胃炎・胃潰瘍の患者が多く、これを三大胃病といっている。このほか、胃下垂・胃拡張・胃神経症などがある。↓胃病〔動物の胃〕脊椎動物の胃は大部分が一室であるが、鳥類では二室に分かれている。食道につづく部分は前胃または腺胃と呼ばれ、これにつづくふくらんだ部分を砂囊と呼ぶ。哺乳類のなかでも、反芻類には反芻胃があつて入り口に近いものから、瘤胃・網胃(蜂巢胃)・葉胃(重弁胃)・皺胃の四室に分かれている。ただし、ラグラクとマメジカ科の動物は葉胃と皺胃の区別がないので三室になっている。無脊椎動物にも形態的・機能的な類似から胃と呼ばれる部分があるが、動物の種類によってまちまちである。原生動物にある食胞は仮性胃とも呼ばれ、海綿動物のからだの内腔も胃腔という。腔腸動物には胃水管系があり、放射水管と口との間のふくらんだ部分が胃である。紐形動物には胃盲囊、線虫類には腺胃、環形動物の貧毛類には筋胃(砂囊)、輪虫類には胃巻貝にある胃、胃壁の一部に二枚の胃楯、腸の始部にある桿晶体は消化に関係がある。軟体動物の後鰓類と甲殻類に胃歯、

軟体動物の斧足類や昆虫などには濾過胃があり、カ・ハエには吸胃が発達し、クモ類には胃盲囊がある。〔諸原春一〕
⑤ stomach ⑥ estomac ⑦ Magen
E イー アルファベットの第五字。音楽ではドレミ唱法のミ(ホ音)をあらわす。E Flat といえば変ホ調、E major はホ長調である。物理でEはエネルギー、電気では電圧の記号である。英語では主として east(東)・East(イギリスの伯爵)・ヨーロッパのコントにあたる)の略称に用いられる。
遺愛寺 いあいじ 中国江西省北部、九江県廬山の香炉峰の北にあった寺で、四方・上下・大小の諸神を祭っているといわれる。景勝地廬山のなかでも、遺愛寺を中心とした景勝はとくにすぐれるといわれた。白居易の詩「遺愛寺の鐘は枕を敲けて聴き、香炉峰の雪は簾を撥いて看る」で有名。〔堀内良道〕
居合術 いあじつ 抜刀術・居合道、また抜合・抜剣・坐居・居相など流派によってさまざまのよび方がある。抜刀の一瞬に勝敗を決する技法で、流派としては林崎甚助重信のはじめたものが古い。甚助は安土桃山時代の奥州羽田(山形県)楯岡村の人で、林崎神社に参籠、靈夢に感じて独自の技法を開拓したという。その流派は林崎神夢想流・神明夢想林崎流・林崎夢想流・林崎流などと呼ばれる。この流派から田宮重政の田宮流、片山久安の伯耆流、長野無楽斎の無楽流という居合術の流派が生まれ、後世、新田宮流・長谷川流・大森流などに発展した。江戸時代、士風の衰えとともに、居合抜きと称して、この技を見せ物にする大道芸人が現われた。
↓居合抜き
居合抜き いあじき 武芸の居合抜きが見せ物化した大道芸。江戸初期、寛文年間(一六六〇〜一七〇四)ごろから浪人者によってはじめられた。元禄(一六八六〜一七〇四)ごろは、富山の反魂丹売り、江戸で人寄せに出た松井源左衛門でみせた。その系統から出た松井源左衛門・源水らが知られ、また長井兵助も浅草奥門で、歯磨売りの人寄せに演じて名高い。一本足の高足駄に白襪といういでたちで、大小重ねた三宝の上ののって、四〜五尺(一二〇〜一五〇センチ)の太刀を、気合いとともに抜く芸。も

EEカメラの原理

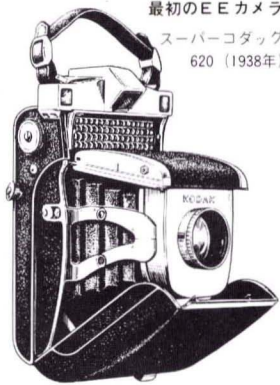
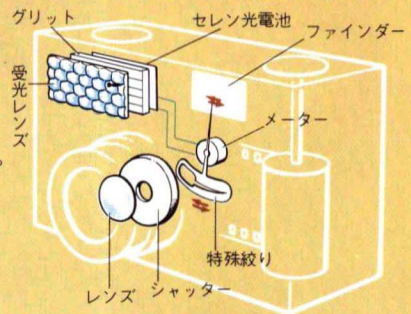
(2) メーターの針を絞り羽根の止め金にする

シャッターレバーを押すと、リングが矢印の方向にまわりAが上がるため、カムレバーはスプリングの力で上方へ引っぱられる。そこでカム面が下がってきて、メーターの針にぶつかるが、このときぶつかる段カムの位置で、絞りの大きさがきまる



(1) メーターの針で特殊な紋り羽根を振らせる

光を受けるとセレン光電池が電気を起こしてメーターの針を振らせ、オタマジャクシ状の絞り穴のある特殊な絞り羽根が動く。被写体が暗いとメーターの針が振れないから絞りは全開、被写体が明るいとき針が振れて絞り穴が小さくなる。



最初のE Eカメラ
スーパーコダック
620 (1938年)

EEメモラの自動露出を原理的にみると、使用フィルム之感度、絞り、シャッター速度の三つの条件のうち二つを前もってカメラでセッティングおき、残りの一つの条件を被写体の明るさに応じて自動的に変化させる方法をとる。使用するフィルムはカメラに詰めると振り終わるまで同じだから、装填と同時にフ

ものもある。

EEカメラとして実際に発売された製品はコダックのスーパーコダック620が最初で、一九三八年（昭和一三）に姿を見せている。機構的には現在のEEカメラと変わらないすぐれたものをもっていたが、露出計のセレン光電池やメーターの性能が不十分で、一〇〇〇台たらずで生産を中止した。EEカメラが一般化したのは六〇年（昭和三五）ごろからで、日本では同年にオリンパス・オートアイが発売され、六一年にはキヤノネットやミノルタ・ハイマチックなどがでて、EEカメラが広く普及した。

ので、ひじょうに多くの方式がある。たとえば、露出計だけでも、受光部に入射した光量に応じて電流が発生するセレン光電池、光量に応じて抵抗値が変わる（O₂）（硫化カドミウム）セル、光起電力があり応答の早いシリコンフォトセル（シリコンダイオード）やガリウム砒素燐ダイオードセルなどが使われており、セレン光電池以外は水銀電池や酸化銀電池などと組み合わせて使用される。また露出方式では、シャッター速度を先に決めておき、絞りを露出を調節するシャッター速度優先式、絞りを先に決める絞り優先式、絞りとしシャッター速度が同時に組み合わされて変化するプログラム式Eなどがある。最新のカメラでは、これらを選択して使い分けられるものもある。

フィルム感度をセツトする。このとき露出計受光部に絞りをつけ、その絞りを高感度フィルムでは大きく、低感度フィルムでは小さくすれば、被写体は同じでもフィルム感度が高いほどメーターの針は振れ方が大きく、フィルム感度と露出を運動できる。次は絞りかシャッター速度のどちらかをセツトして、残りの一つの条件を被写体の明るさに比例して変化させると、露出は自動的に決まる。

EEカメラが自動的に露出する方法は、(1)メーターの針で特殊な絞り羽根を振らせる方法。オタマジャクシ状の絞り穴のある特殊な絞り羽根をメーターの針の先端につけ、針の振れで絞り羽根を直接動かす。この形式は簡単なEEカメラや8ミリシネカメラに採用されている。

イイギリ 多数の雄しべをもった雄花

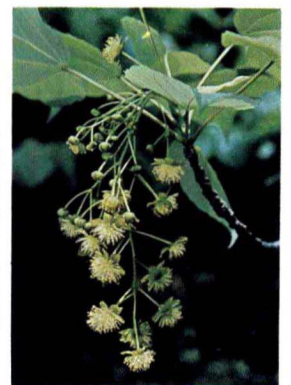


法。メーターの針の振れ方は被写体によって、変わるから、シャッターボタンを押したとき、絞り羽根と連動した階段状か特殊なカーブをした露出決定用のカムをメーターの針にあたるようにすると、カムと針のあたる位置に応じて絞りの大きさが決まる。

輕く、下駄材・器具材とする。
イイギリ(科) *Flacourtiaceae* 双子葉類 (小林義雄)
物 離弁花類。大部分が亜熱帯から熱帯に分布し、七〇属約五〇〇種が知られ、日本にはクスドイゲと東アジアに一属一種だけあるイイギリが自生する。高木または低木、葉は単葉で互生。雌雄異株、または多性のものがある。

(3) シャッター速度を自動的に変える方法。電子シャッターを使う方式で、シャッターが開いたとき電磁石でとめておき、同時に受光部からの電流をコンデンサーに蓄える。コンデンサーの充電電圧が決められた値になると、電磁石に流れていた電流が切れ、シャッターが閉じて露出が終わる。↓カメラ

イイギリ 【飯桶】 *Iastia polycarpa* Maxim. イイギリ科の落葉高木。別名ナンテンギリ。高さ一五メートル達し、樹皮は灰白色で裂けることなく、皮目が長く水平にでる。枝は太く、葉は互生し、心状卵形、長さ一〇〜二五センチ、先はとがり、基部は浅い心臓形または円形で、縁に浅い鋸歯があり、下面は粉白色。赤くて長い葉柄があり、柄の先端に二個の腺体がある。四〜五月ごろ若枝の先に長さ二〇〜三〇センチの大形の円錐花序をたれさせ、淡緑黄色の小花を多数つける。雌雄異株。萼片五個、花弁はなく、雄花には雄しべが多数あり、雌花は雄花より小形で、子房は丸く、花柱は五個ある。果実は径約一センチの球形で橙赤色に熟し、ナンテンの果実に似ていて、落



イイギリ 多数の雄しべをもった雄花

葉後はよく美しい。本州・四国・九州の地の肥えた、やがて湿りけのある山林には、朝鮮・中国にも分布する。昔、葉は飯を包むのに用いたので飯桐の名を得たという。庭木盆栽として植え、材は淡黄白色、やわらかく、下駄材・器具材とする。 小林義雄

イイギリ(科) *Ficoulticeae* 双子葉類

物・離弁花類。大部分が亜熱帯から熱帯に分布し、七〇属約五〇〇種が知られ、日本にはクスノキと東アジアに一属一種だけあるイイギリが自生する。高木または低木、葉は革葉で互生。雌雄異株、または多性のものがある。花弁はないか、または萼片と同数ある。雄しべは多数。子房は上位で一室。果実または核果。インドシナ方面に分布するダイフウ

は *Hydrocarpus anhelmitica* は、種子から大風子油をとる、薬用にする。 小林義雄

飯坂温泉 いざいおんせん 福島市飯坂にある温泉。東北本線福島駅から福島交通の電車で一八分、バス三〇分。飯坂地区はさらに鮎川・波・波・湯・滝・湯・赤川湯などに分かれ、摺上川すじに治う。『奥の細道』にでる鮎川橋以北に新しい構えの豪壮な旅館が相對して並ぶ。対岸を湯野温泉(単純泉)とよぶ。

福島市の奥座敷で、東北第一の温泉街とも形成する。磐梯吾妻スカイラインの開通で訪客が増加し、にぎわっている。近くに佐藤氏司の大島城跡や、源義経に仕えた佐藤忠信・継信らの墓がある医王寺があり、「弁慶の笈」などを宝物として所蔵している。泉質は単純湯、泉温三九・五七度。神経痛・皮膚病・胃腸病にきく。

〈安田初雄

飯篠長威斎 いぎさちやういさい (一四八〇?)

名は家直。室町時代の刀槍術家。下総国(千葉県)香取郡飯篠村の生まれ。『本朝武芸小伝』によると幼少から刀槍術を好み、鹿島・香取神宮に祈り精妙を得、天真正伝神流という剣術の流派を立てたとある。はじめ山城守、後に伊賀守を名のり、刺髪して長威斎という。一時京都で將軍足利義政を教えたともいう。弟子に塚原土佐守安幹・松本備前守政信・門井守悦入道があり、塚原土佐守安幹から塚原卜伝、松本備前守政信から有馬大和守乾信が出た。また家直の孫飯篠若狭守盛近の系統から槍の宝蔵院胤栄、薙刀の穴沢浄見秀俊が出た。

飯沢匡 いざわたす (一九〇一) 劇作家。

本名は伊沢紀。元樞密顧問官伊沢多喜男の長男。文化学院卒業。朝日新聞社にはいり一九五四年(昭和二九)退社して、作家生活に進んだ。ジャーナリスト時代に劇作をはじめ、太平洋戦争下で風刺劇『北京の幽霊』(一九四三文学座上演)を発表して注目された。痛烈な風刺喜劇を得意とし、『二号』(一九五五)『五人のモノ』(一九五五)などがある。テレビ・ラジオ・人形劇・漫画論などに多才ぶりを発揮。狂言『啞の一声』もある。

『飯沢匡狂言集』(二巻・未来社)

EEC イーシーシー ヨーロッパ経済共同体 European Economic Community の略称。ヨーロッパ共同市場 European Common Market ともいう。ヨーロッパの地域的経済統合機構。EC(ヨーロッパ共同体)の主要機構。

第二次世界大戦によってヨーロッパは荒廃し、アメリカ・ソ連の二大陣営に対抗してヨーロッパの復権を達成するためにはどうしても団結を必要とした。経済面では、ヨーロッパという狭小な地域が各国の市場に分割されており、市場規模が小さく経済発展が望めないという事情があった。この政治的要請と経済的必要性に促され、ヨーロッパの経済統合はしだいに具体化の歩みを始めた。イギリスはゆるやかな連合協調の体制を希望したが、フランス・西ドイツ・イタリア・オランダ・ベルギー・ルクセンブルクの六か国は小欧州ベールの経済統合を試み、一九五七年三月ロー

マで「ヨーロッパ経済共同体を設立する条約」(ローマ条約)に署名、これにもとづいてEECは、五八年一月一日発足した。

その後六七年七月「ヨーロッパ共同体の単一理事会および単一委員会を設立する条約」が発効し、EEC・EURATOM(ヨーロッパ原子力共同体)・ECS(ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体)の各執行機関の統合が実施された。以後、三共同体を総称してECと呼ぶことになった。↓EC

飯島町(市) いじま(まち) 長野県南部、上伊那郡にある町。一九五四年(昭和二九)町制施行。五六年七久保村を合併。飯田線が通じる。江戸時代は幕府直轄領で維新後一時伊那県庁の所在地にもなった。伊那盆地の中央部に位置し、周辺農村の買物町をなす。天竜川の段丘上に位置する。現在、従来のクワ畑にかわって二十世紀ナシの栽培が盛んである。人口一万〇二九二。

飯島魁 いじまきさお (一八六一—一九二五) 動物学者で寄生虫学の日本における創始者。静岡県浜松の生まれ。一八八一年(明治一四)に東京帝国大学動物学を卒業してドイツに留学し、帰国後に東京帝国大学教授になった。豪放な性格で、長さ一〇センチに達するミゾサナダムの幼虫をみずから飲みくだし、その感染経路をあきらかにするなど、各種のエピソードが語り伝えられている。そのほか海綿類に関してもすぐれた研究を残した。また動物学全般を論じた名著『動物学提要』(一九二六)があり、動物学のもっとも権威あるテキストとして長年のあいだ使用された。

イイズナ least weasel) Mustela putorius 食肉目・イタチ科の哺乳類。食肉目中最小の種で、一名イイズナイタチ・コエゾイタチともいう。北アメリカ・ヨーロッパ北部・アジア北部に分布し、日本では北海道・青森県・山形県にすむ。頭胴長は雄一三・二五センチ、雌一〇・二〇センチ、尾長は雄一・五五センチ、雌一・三三センチ。オコジョに似ているが尾が短く、その先は黒くない。冬は全身純白で夏は体の下面と手あしの内側をのぞき褐色。歯式は 3.1.3.2 で合計三四本。地上生活で、ふつう人家付近に多く、ネズミ・カエル・トカゲ・ヘビ・昆虫などを食べる。性質

はきわめて勇猛で本種より大きいオコジョをも攻撃し、ウサギなども捕食する。交尾期は春から夏までで、妊娠期間は五四日前後、一産三〜九子。体が小さくネズミの穴に自由にはいり捕食するので、ネズミの駆除に役だっている。天敵はイタチ・キツネなど。毛皮は毛が短くあらいため、価値が低い。(今泉吉典)

飯田(市) いだし 長野県南部、伊那盆地の中心都市。一九三七年(昭和一二)飯田町・上飯田町が合併して市制施行。五六年座光寺・伊賀良・山本・三穂・松尾・竜丘・下久堅の七村を合併。六一年川路村、六四年千代・竜江・上久堅の三村を編入。飯田線をはじめ伊那盆地南半のバス交通のセンターとなっている。七五年の中央自動車道の開通により、名古屋市との結びつきが強まった。市街地は一六七二年(寛文一二)以来幕末まで堀氏二万石の城下町であったが、一九四七年(昭和二二)の大火で城下町の面影は消え、近代都市に改まった。天竜川と松川の段丘上に位置し、在来産業には水引・元結・傘などの家内工業があるが、近年、市の南西には各種電気・機械部品工場が設立された。長姫城跡は段丘崖にあって眺望よく、中央通りのリング並木は珍しく、全国に知られている。寺も多く、文永寺・元善光寺・長源寺は有名である。人口七万七二二。

飯高(町) いいたか(ちょう) 三重県中部、飯南郡にある町。一九五六年(昭和三一)宮前・川俣・森・波瀬の四村が合併して町制施行。鉄道の便なく、松阪から柳田川の谷に沿う国道(和歌山街道)にバスが通じる。街道筋の宮前・波瀬はもと宿場町。住民の九〇%が山林関係の仕事に従事し、木材・木炭・シイタケ・茶の産が多い。柳田川の香肌峡は県立公園になっている。人口七七〇七。

飯高一郎 いいたかいちろう (一九三一) 合金学者。山梨県に生まれ、旧制第一高等学校をへて、一九一七年(大正六)東京帝国大学理科大学化学科を卒業。三菱合資会社にはい

り、のち東北帝国大学金属材料研究所の本多光太郎のもとで金属材料の基礎研究に従事した。二〇年、三菱造船所研究所創設とともに所員となり、二四年、工学博士の学位を受けた。三三年(昭和八)理化学研究所主任研究員、四六年、早稲田大学教授兼鋳造研究所長となり、現在は東海大学教授。(山崎俊雄)

飯田(町) いいたか(まち) 秋田県西部、南秋田郡にある町。八郎潟南東部に位する。一九三五年(昭和一〇)町制施行。四二年大久保町・豊川村と合併して昭和町となったが、五〇年、昭和町から分町して、元の飯田川町となって現在に至る。奥羽本線が通じる。八郎潟沿岸にかけて低平な美田が広がり、東部の丘陵の一部は飯田川公園として整備され展望がすばらしい。国道七号線沿いの長い街村形態で、清酒・みそ・しょうゆなどの醸造業が名高い。国の重要文化財としての観音堂がある。人口五五一。

イイダコ「飯蛸」 Octopus oculinus 軟体動物・頭足類・マダコ科のタコ。北海道から九州・朝鮮・中国に分布し、浅海の砂泥または砂礫底にすみ、アサリ・ハマグリなどの貝類を食べる。体長三〇センチぐらいで、外殻は卵形、表面はやや皺肌状で淡黄褐色から黒褐色。腕はほぼ等長で二〇〜二五センチ、吸盤は二列に並ぶ。目のまわりに五〜六個の小突起がある。左右の第二、三の腕の基部の間に金色の眼紋がある。成熟卵は卵黄多く直径一ミで二〇〇〜六〇〇粒をもち、成熟すると外殻の中に充満する。産卵期は三〜四月。卵嚢は短い棍棒状で長さ五ミ、太さ三ミぐらい。四〇〜五五日で孵化し、一年で成体となる。漁期は一二〜四月、小形のタコ壺やアカガイの殻などを利用して採捕する。卵は煮ると米飯のよう



イイダコ(上)体長約二五センチで楕円形の体をもった成体(下)幼体

になるのでこの名がある。美味。〈波部忠重〉
なお、「飯蛸」は春の季語で、「望潮魚」とも書く。

飯蛸の一かたまりや皿の藍。夏目漱石

〔釣り〕日本全国の沿岸地帯で釣れるが本場は関西地方。九月末から一月までが釣り期で最盛期は一月。数を多く釣るのがこの釣りの特徴。竿は一・八尺の柔らかいもの。道系三号二〇号に、関東地方ではテンヤ、関西地方では船型ナマリをつける。えさはラッキョウを二つ割りにして鉤に巻きつける。流れのゆるい澄んだ潮が釣りよい。

飯田事件 いだいじけん 明治政府の専制・弾圧に抗して、一八八四年（明治一七）長野県飯田を中心に、長野・愛知の自由党員によって計画された反政府拳兵未遂事件。同年五月松井平吉の主宰する飯田の愛国正理社と村松愛蔵・八木重治の指導する名古屋の公道協会が提携して、租税軽減・徴兵令改正・印紙税廃止・貧民救護を要求、中貧農の組織化をはかるとともに軍隊をも参加させるため八木が看護卒として名古屋鎮台に入営、下級兵士二〇〇名を組織した。八月松井らは植木枝盛に檄文作成を依頼、蜂起を準備した。彼らの計画は、激発する農民一揆を組織し、農民と下級兵士で名古屋鎮台・監獄を破壊、長野から山梨に出て、三〇〇〇名の甲府貧民党と連合、八王子にいたり、全国の同志を糾合、東京の上野で全国に自由革命を宣言する、といふ遠大なものであった。一月に起こった秩父事件と呼応して決起をはかったが、同事件が一月鎮圧されたため次の機会を待つうち計画が露見し、同年一二月首謀者は逮捕された。村松・八木・松井のほか、川澄徳次・江川甚太郎・中島助四郎の六名は禁禁固七年以下に処せられたが、八九年（明治二二）憲法公布の大赦で出獄した。

飯田線 いだせん 東海道本線豊橋―中央本線辰野間一九六〇の国鉄線。この線は豊橋―大海間（二〇三全通）を豊川鉄道、大海―三河川合間（一九三全通）を豊来寺鉄道、三河川合―天竜峡間（一九三全通）を三信鉄道、天竜峡―辰野間（一九三全通）を伊那電気鉄道とそれぞれ会社が経営していたが、一九四三年（昭和一八）全線国鉄線となる。線内最大の都市飯田市にちなんで飯田線と命名。愛知・静岡・長野三県を結び、全線直電化されている。沿線には天竜峡・鳳来寺・中央アルプス・佐久間ダムなどの観光地がある。電車急行で四時間三〇分。所属駅数九二。

飯田蛇笏 いだだ 俳人。本名武治。山梨県生まれ。苗字帯刀を許された大地主の長男。少年時代、森鷗外、『即興詩人』と芭蕉に心酔し、一七歳のとき出奔したが、その途次思いとどまり、いったん帰郷する。一九歳のとき早稲田大学英文科に入学、文学の友を得、「早稲田吟社」に加わり作句した。一九〇八年（明治四一）、高浜虚子の「俳諧散心」に参加し注目されるが、虚子の俳壇引退声明があり、翌年、いっさいの学を捨てて、家業をつぐため故郷に帰るが、一九一三年（大正二）虚子が俳壇に復活するとともに作句に精進し、同年一月の『ホトトギス』に「芋の露連山影を正しうす」が巻頭となり、文名大いに振るう。作風は、情念の激しさとそれを昇華して、きびしい内部姿勢を形成するのが特色で、七七歳で没するまで甲州の山中で、正しい格調と蒼古たる面貌をもって自然の実相をうたい高め、うむことがなかった。一九一八年（大正七）から雑誌『雲母』を主宰し、没後、角川書店で蛇笏賞が制定された。

『山嵐集』（一九三）・『雲霞集』（一九七）・『心像』（一九七）などの句集、『俳句道を行く』（一九三）・『俳句文学の楽園』（一九三）・『穢土寂光』（一九三）などの随筆・評論がある。

『雪山』をはひまはりあるこまかな句集（新潮文庫）

飯田橋 いだばし 東京都千代田区と新宿区の境界にある地区、および外堀にかかる橋。かつて大沼とわかれた沼地であったが、江戸時代、御茶の水の掘割りのさいに埋め立てられた。江戸川と外堀の交点にあり、また、国電飯田橋駅、道路の五叉点があり、交通の要地。現在の飯田町貨物駅は中央線の前身の甲武鉄道（私鉄）の始発駅として、一八九四年（明治二七）埋立地にできた。

飯塚（市） いづかし 福岡県中部、筑豊炭田南西部にある炭鉱・商業都市。一九三二年（昭和七）市制施行。六三年幸袋・二瀬の二町と鎮西村を編入。筑豊本線が通じ、上山田線・後藤寺線を分岐する。藩政時代は筑前六宿の一つとして長崎街道随一のにぎやかな宿場町で、飯塚千軒とわかれた。明治中期筑豊本線の開通、三菱鉱業飯田（二〇八）・麻生産業芳雄（二六四）などの開鉱以来、鉱業・交通・商業の中心地となった。近年石炭業の衰退がいちじるしく、一九六六年に鯉田炭鉱、六九年に芳雄炭鉱がそれぞれ閉山し、その他の小炭鉱も七六年までにすべて閉山した。炭業の不況は商工業にも深刻な打撃を与え、人口は一九五〇年（昭和二五）をピークとして漸減し、現在は約八〇％となっている。人口七万五四一七。

飯塚啓 いづかき 動物学者。一八九七年（明治三〇）東京帝国大学動物学科学卒業後、旧制第六高等学校教授・東京帝国大学助教授・学習院教授をへて、東京科学博物館動物学部長をつとめた。一九一〇年『日本産多毛環形動物』ほかによって理学博士となる。ゴカイ類など環形動物の世界的権威者として知られる。また、『飯塚動物発生学』をはじめ、動物学に関する数多くの教科書を著わしている。

飯塚友一郎 いづかともいちろう（一八四一―）演劇研究家。東京生まれ。東京帝国大学法学部を卒業。二松学舎大学教授。主著の『歌舞伎細見』（一九三）は複雑な歌舞伎狂言を細かく系統だてて分類した労作で、歌舞伎研究者必携の書としての価値をもっている。他に『歌舞伎概論』『演劇入門』や西ヨーロッパの演劇論を紹介した『演劇学序説』（上・下）などがある。

飯塚琅玕斎 いづかろうかんさい（一八六一―一九一六）竹芸家。栃木県生まれ。本名弥之助。幼時から父鳳翁について竹工を学び、さらに独自の研究を重ねて大成した。帝展・文展に独自の出品し、たびたびその審査員にあげられ、日展参事をつとめた。伝統的な技術を個性的な意匠の創造に生かして、職人芸であった竹工を近代的な芸術作品にまで高めることに成功し、大正・昭和期におけるこの道の第一人者であった。

飯縄山 いづなやま 長野市の北部にある標高一九一七メートルの火山。上信越高原国立公園に含まれる。山容全体は女性的で小学生でもふもとから二時間ほどで山頂に達する。山麓一帯は標高一〇〇〇メートル前後の平坦な高原（飯縄高原）をなし、一九六四年（昭和三九）に開通した有料道路のため、高原避暑地として近年急速に開発が進んだ。山頂からは戸隠山をはじめ、妙高山など付近の山々が見渡せる。

飯豊山 いいでま 山形県南部、西置賜郡にある町。飯豊村が一九五八年（昭和二三）中津川村を編入して町制施行。米坂線が通じる。純農村で平野部は米の産地、白川の谷はブナ材を出し、米沢牛の本場である。中津川地区は飯豊山登山口の一つ。地蔵岳の一五〇〇メートル地点には、新潟県に流下する荒川上流の玉川の水を、上杉藩が一九七九年（寛政一一）から一八一八年（文政一）まで二〇年を費やして白川に引いた穴堰がある。人口一万〇七六四。

飯豊鉱山 いいでこうざん 新潟県新発田市加治川上流の赤谷鉱山と総称されている鉱山の一つで、滝谷地区にあった。飯豊山地の南西麓は古生層の発達した地域で、その石英粗面岩・花崗岩・石灰岩などの中に、薄い赤鉄鉱・亜鉛・鉛・石灰層が含まれている。一九五六年（昭和三一）以来日曹金属鉱山会社が経営し、鉛・亜鉛・銅・硫化鉄などを採掘したが、鉱量が枯渇し、六八年閉山。山崎久雄『飯豊山』いいでさん 新潟・福島・山形県境付近にある信仰の山。磐梯朝日国立公園中の飯豊山地の主峰で、標高二一〇五メートル。古くから農業の神を祭り信仰の山として、地元民の登山者が多く、頂上には飯豊山神社がある。しかし花崗特有の壮年期浸食を受けたけわしい山で、素人には登山の困難な山であったが、国立公園に指定されてから登山コースも整備された。山頂部には高山植物のお花畑もある。登山口は、赤谷線終点から登る赤谷口（新発田市）、米坂線の小国口（山形県小国町）、磐越西線の実川口（新潟県鹿瀬町）、山都口（福島県山都町）などがある。

飯豊山 いいでさん 新潟・福島・山形の三県にまたがる山地。一九五〇年（昭和二五）磐梯朝日国立公園に指定された山岳公園の一

高一九一七メートルの火山。上信越高原国立公園に含まれる。山容全体は女性的で小学生でもふもとから二時間ほどで山頂に達する。山麓一帯は標高一〇〇〇メートル前後の平坦な高原（飯縄高原）をなし、一九六四年（昭和三九）に開通した有料道路のため、高原避暑地として近年急速に開発が進んだ。山頂からは戸隠山をはじめ、妙高山など付近の山々が見渡せる。

飯豊山 いいでま 山形県南部、西置賜郡にある町。飯豊村が一九五八年（昭和二三）中津川村を編入して町制施行。米坂線が通じる。純農村で平野部は米の産地、白川の谷はブナ材を出し、米沢牛の本場である。中津川地区は飯豊山登山口の一つ。地蔵岳の一五〇〇メートル地点には、新潟県に流下する荒川上流の玉川の水を、上杉藩が一九七九年（寛政一一）から一八一八年（文政一）まで二〇年を費やして白川に引いた穴堰がある。人口一万〇七六四。



井伊直弼 直弼の二男直安の筆になる画像

つ。標高二一〇五尺の飯豊山を主峰とし、三国岳（一六三・一）・御西岳（二〇・二）・枯松山（一一・二）などの尾根筋から、大日岳（二二・八）連峰・二王岳（一四・二）連峰など、多くの支脈が分かれ、雄大な山容と峻峻さで知られる。山体は秩父古生層を抜いて貫入された花崗岩類からなり、花崗岩特有の壮年期の浸食を受けて、そのけむさをきびしくし、素人には登りにくい山となっている。頂上付近には浸食平坦面が発達して、高山植物の宝庫をなし、東西両斜面はブナの原生林におおわれ、サル・クマ・リス・カモシカなどの野生動物も豊富で、荒らされない原始美が残されている。《山崎久雄・井伊直弼》いなのすけ（二五・一六〇）幕末の大老、近江国（滋賀県）彦根藩主。一代藩主直中の一四男。母はお富の藩。一八三一年（天保二）父が死んだので北の御屋敷に移り、こを埋木舎と名づけて部屋住の生活にはいった。この間、禪・槍術・居合術・茶道などの修業に励み、四二年（天保一三）長野義言と師弟の契を結んで国学の研究に没頭した。四六年（弘化三）長兄で二代藩主直亮の世子となり、江戸に出て、従四位下侍従に叙任、玄蕃頭と称し、五〇年（嘉永三）直亮の死により、一月一三代藩主となり、遺領三十五万石を継ぎ、掃部頭と改めた。五三年（嘉永六）六月ペリーの浦賀渡来の際には国許にいたが、彦根藩は相模警備の重任を果たし、ついで出府、鎖国の祖法は守るべきでなく、交易をおこない、海外へ進出すべき方略を幕府に答申した。同年一月相模から羽

田・大森の警備に転じ、五四年（安政一）四月宿願の京都守衛を命ぜられた。藩主となつてから、しだいに溜問詰大名（江戸城中にある譜代大名の上級者や老中つとめをした大名の詰所を溜問といひ、そこに席を有する有力大名）中で重きをなし、彼らとともに徳川齊昭の攘夷説に反対し、以来齊昭との対立を深め、翌年一〇月には齊昭の反対する溜問詰の堀田正睦を老中に就任させた。五七年八月出府し、ハリスの上府に反対していた溜問詰大名の意見をくつがえし、一二月アメリカの要求をいれよとの溜問詰大名連署の意見書を幕府に提出した。このころから將軍継嗣問題が表面化すると、血統論から紀州慶福を推し、南紀派の重鎮として、一橋慶喜を推す一橋派（齊昭ら攘夷・幕政改革派）と対立した。五八年二月、条約勅諭奏請のために堀田閣老が上京すると、長野義言を京都に派遣して廷臣間を説得させたが、勅諭を得るこがでできなかった。同年四月保守派の支持のもとに大老となり六月、日米修好通商条約の無断調印を強行、ついで慶福を將軍の継嗣とする旨を公表し、無断調印に反対する一橋派の徳川齊昭・同慶恩・松平慶永らを処罰した。外交事情の奏聞に上京する老中間部詮勝を援護するため、八月に長野を再び入京させたが、水戸藩に密勅が降下したため、ついに長野の意見をいれて志士の逮捕を決意し、翌年にかけて安政の大獄をおこし、水戸藩には勅諭の返納をせまった。このために六〇年（安政七）三月三日、桜田門外で水戸・薩摩浪士らに暗殺された。著書に『井伊大老茶道談』二冊がある。↓安政の大獄

井伊直弼 直弼の二男直安の筆になる画像

に戦功をあげ、一五年（元和一）病弱の兄直勝に代わって彦根藩主となる（十五万石）。その後数度の加増により領地は三十五万石に達し、幕府の老臣として將軍徳川秀忠・家光・家綱の三代、これを補佐した。《加藤栄一》井伊直弼 いなのすけ（二五・一六〇）安土桃山時代の武将。徳川家康の重臣。酒井忠次・本多忠勝・榊原康政とともに徳川四天王と称せられた。幼名は虎松・万千代、兵部少輔と称する。遠江国（静岡県）井伊谷に生まれる。井伊家は今川氏の譜代の家臣であった。直政の父直親は、今川氏真から謀叛の心ありと疑われ、直政誕生の翌年、掛川城主朝比奈泰能の手で殺害されたが、直政はかろうじて死をまぬかれた。はじめ新野左馬助、のち松下清景の手で養われ、一五七五年（天正三）徳川家康に仕え、旧知井伊谷を与えられた。翌年武田勢との対戦（長篠の戦い）に初陣。家康の関東入国のち、上野国（群馬県）箕輪城十二万石を与えられる。文禄の役には、江戸城の留守居をつとめ、九八年（慶長三）居城を箕輪より和田（高崎市）に移し高崎城と名づける。一六〇〇年の関ヶ原の役には本多忠勝とともに監使として江戸を発進、率先して敢闘し、戦後処理にも奔走した。これらの功により六万石を増加され、石田三成の旧領近江国（滋賀県）佐和山城を与えられた。○上野の所領とあわせて十八万石を領した。○一年、従四位下に昇進、隠居し、翌年二月、佐和山で没した。《加藤栄一》飯梨川 いながわ 島根県東部、能義郡広瀬町南部の山地に源を発し、中海に注ぐ川。延長二七・八。上流が花崗岩地域で古くから砂鉄採取のため土砂の流出が多いため、天井川をなしている。洪水時の流水を早くするため、橋脚の低い特有の橋が所々にある。流域は第二次世界大戦前は桑園が多かったが、いまは果樹・野菜地域である。《池田善昭》許嫁 いいなすけ 双方の親が合意して婚姻を結ぶこと。またその当人をいう。婚姻が当人同士の間で結ぶときは一般化せず、武家時代にはいって家長権が強まり、婚姻が家の意向で決定せられるようになると、幼少時から許嫁が多くなった。政略結婚などにその

極端な例がみられる。江戸時代の庶民の間には、許嫁で死んだ娘を、頼んで男方の墓地に埋葬してもらう風習があった。《大間知篤三》東洋では許嫁の風習は古くからみられる。インドには女の子が生まれるとすぐに婚姻する風習が残っているが、単なる約束でなく、もし相手の男の子が死ぬと女の子は生涯寡婦（やめ）として暮らさなければならず、結婚が禁じられている。中国と朝鮮では古い時代に困窮した家の女の子を許嫁として男の子の両親に渡し、養育を頼む風習があった。また、普通の家庭でも、娘が結婚年齢に達する以前に純潔を失うかもしれないことをおそれ、許嫁の約束をして男の子の両親に娘を渡した場合もあった。西洋では中世紀に政略的な婚姻がはじまつてから多くみられ、たとえば一五八八年フランスのルイ七世は播磨中の娘をイギリスのヘンリー八世の一三歳の王子の許嫁にした。教会では七歳から一二歳までの娘と、七歳から一四歳までの息子の許嫁は認められたが、その結婚は認めなかった。↓婚姻 《春山行次》飯沼 飯沼 いなぬま 三重県中部、飯沼郡にある町。一九五六年（昭和三一）、柿野・粥見両町が合併して飯沼町となった。松阪からバスが通じる。柳田川沿いの和歌山街道に深山・横野・粥見の街が発達するほかは農山村。木材・茶・シタケ・コンニャクなどを産する。人口七五二三。《福永正三》飯沼惣斎 いなぬまそうさい（七三・一六〇）幕末の植物学者。はじめ医学を修めたが、のち小野蘭山に師事して本草学を学んだ。さらに宇田川榕庵のもとで西洋植物学の知識を伝授され、それらを総合し、日本産植物をリンネの分類方式にしたがって種分けした著書『草木図説、草之部』全三〇巻（一八六五）を著わした。もう一つ注目されるのは、日本の植物学者として、はじめて本格的に顕微鏡を用い、微細構造を明らかにした解剖図を描いていることである。《筑波常治》飯野 いの 宮崎県南西部、えびの市の一地区。一九六六年（昭和四一）飯野・加久藤・真幸の三町が合併してえびの町となり、さらに七〇年市制施行した。吉都線が通じる。日向国の地頭の伊東氏と島津氏が決戦をした木崎

原の古戦場があり、以後は島津領となる。サ
トイモ・スイカの特産がある。〈下村数馬〉
飯野(町) いのま 福島県北部、伊達郡
にある町。一九三七年(昭和一二)町制施行。

一九五五年明治・青木・大久保の三村を合併
した。中心市街地の飯野は二本松から伊達の
東根郷・小手郷に通ずる街道に沿った一駅
で、下手渡の立花藩の参勤交代の通路にあた
る。川俣町とともに昔は絹織物の産で知られ
三・八の羽二重市が立った。今も小機業場
が多く、絹・人絹の広幅物を産する。人口七六
九二。〈安田初雄〉

飯野川 いのがわ 宮城県北東部、桃生郡河
北町内の旧町名。旧飯野川町は一九五五年
(昭和三〇)河北町となった。新北上川が追
波川となって東流する湾曲左岸に位置す
る。一関街道によりバスで石巻および登米方
面に通じる。内陸河川交通時代には水陸の連
絡地として栄え、現在はこの地方の商業中
心。可動堰が設けられ下流四〇平方キロを灌
漑する。伊達政宗の奨励による茶栽培と北上山
地のスズケ(鈴竹)による竹細工は現在も
引き継がれている。〈長谷川典夫〉

井伊谷宮 いのやぐ 静岡県引佐郡引佐町
に鎮座。後醍醐天皇の第八皇子宗良親王を祭
る。親王は足利尊氏が叛いたとき征東將軍と
なり、遠江国(静岡県)井伊城を根拠地とし
て諸国を巡戦したが、一三八五年(元中二)
井伊城に没し、葬られた。明治維新のさい、
神社造営の議がおこり、彦根藩主井伊直憲が
先祖の縁でこれに尽力し、親王の墳墓の前に
社殿が造営されて、一八七二年(明治五)遷
座して、官幣中社となった。例祭は一〇月二
二日。〈鎌田純一〉

飯ノ山 いのやま 香川県北西部、丸亀市・
坂出市・飯山町の境をなす標高四二二メートルの富
士山型の残丘。花崗岩上に安山岩がのるビュ
ート(台地)が侵食されて生じた地形の典型。
坂出市からバス二〇分、そこから二・五キロ。
平野に孤立するのでどこから見ても美しく、
古くから詩歌にうたわれ、富士見の地名を多
く残し、讃岐富士とよび、遠景の美を賞する。
山上はマツの緑におおわれ、山麓は古い居住
地で、モモなどの果樹、園芸などの畑作農業
地にとりまかれている。〈合田栄作〉

飯盛(町) いもり(ちょう) 長崎県南部、北
高来郡にある町。長崎・諫早両市の間にはさ
まれている。一九六五年(昭和四〇)町制施
行。丘陵性台地であるがよく耕され、古来シ
ョウガはその特産物。千々名湾(橋本湾)沿岸
はすぐれた各種漁法が発達したが、今は衰え
た。条里制遺構を示す水田地帯がある。人口
七九七八。〈吉田敦市〉

飯盛鉱山 いもりこうざん 和歌山県北部、
那賀郡那賀町西脇地区にあった鉱山。おもに
黄鉄鉱を産した。一八七八年(明治一一)に
発見され、八七年から採掘を開始、一九一九
年(大正八)以来、古河鉱業会社が経営し
た。鉱床は、紀ノ川南岸の古生代結晶片岩中
の含銅硫化鉄鉱床が、飯盛山から竜門山一帯
四キロ余にわたっている。一九六八年(昭和四
三)六月に閉山となった。〈小池洋一〉

飯盛里安 いもりやす 無機
化学者。石川県の生まれ。一九一〇年(明治
四三)東京帝国大学理学部化学科卒業。坪和
為昌の教をうけ、黄血塩電池の研究で、一
六年(大正五)理学博士。東京大学講師・第
一高等学校教授をへて、理化学研究所主任研
究員、現在名誉研究員。この間、ラムゼー・フ
ローによってイギリスに留学し、*ソッ
ディ E. Sody のもとで放射性鉱物について
研究した。帰国後は主として放射性鉱物・含
希元素鉱物の化学について研究し、学術研究
会議員・日本化学会会長をつとめた。また
『放射性鉱物および希元素鉱物の研究』によ
って一九四五年(昭和二〇)には学士院賞・
朝日文化賞を受賞。現在は人造宝石について
研究中。〈中原勝儼〉

飯盛山 いもりやま 福島県会津若松市滝沢
にある小丘。一八六八年(明治一)戊辰戦争
のとき会津藩の白虎隊員一九名がここで自刃
した。宇賀神社の境内で、白虎隊の墓があり、
隊員の木像を安置してある。一七九六年(寛
政八)に建立された栄螺堂(円通三匠堂、イ
タリアから贈られた顕彰碑や白虎隊記念館が
あり、参拝客・観光客でにぎわっている。会
津若松駅からバス一五分。〈安田初雄〉

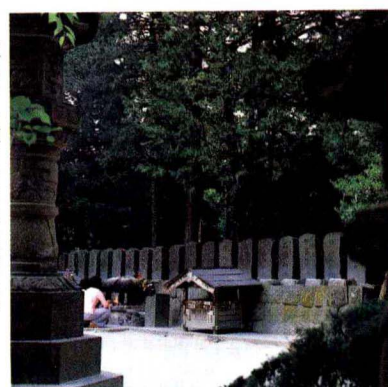
飯山(市) いやまし 長野県北部にある
市。長野盆地の北端に位置し、千曲川が貫流
する。一九五四年(昭和二九)飯山町は外様・

常盤・柳原・秋津・木島・瑞穂の六村を合併
して市制施行。五六年、木島平村の一部、太
田・岡山二村を編入。飯山線の主要駅をなし、
長野電鉄も通じる。付近農村部のバス交通の
センターをなす。ここは一九七九年(大正七)
上杉謙信が築城、享保年間(一七六〇)以後
幕末まで本多氏二万石の城下町であった。市
街は千曲川の沖積地に位置し、冬の積雪が大
きいため近代産業は発達せず、スキー工場が
特徴的。在来工業として仏壇づくりや和紙・
畳表製造がある。近年スキー場として冬の観
光に努めている。町は城下町の面影があり、
島崎藤村の『破戒』はここで書かれた。人口
三万〇七六六。〈小林寛義〉

飯山線 いやましせん 信越本線豊野―上越線
越後川口間九六・七キロの国鉄線。長野県北部
から新潟県南部を走る。豊野―飯山間は一九
二二年(大正一〇)、飯山―十日町間は一九二
九年(昭和四)開通、飯山鉄道会社で経営され
た。その間、越後川口―十日町間は一九二七年(昭
和二)開通、国鉄で経営されている。四四
年、全線国鉄線となる。川西町には最大出力一
二万キロワットの国鉄千手発電所がある。気動
車急行で二時間半。所属駅数二九。〈竹崎 確〉

伊井蓉峰 いいようほう (一九一―一九三) 新派
俳優。本名中三郎。東京日本橋に生まれ、独
逸協会に学ぶ。銀行勤めの後、一八九一年
(明治二四)、依田学海の後援を得て男女合同
改良演劇済美館を結成、浅草吾妻座で『政党
美談淑女操』を上演した。一九〇二年(明治
三五)河合武雄と結んで原作に忠実な形で
近松物の上演を試みた。〇七年からの新派大
合同劇では座長格となり、大正期の河合武雄・
喜多村緑郎とならぶ三頭目時代をつくった。
すぐれた容姿をもち、『金色夜叉』の貫一、
『姉妹図』の早瀬などが当り役。〈大江良太郎〉

医院 いん 医療法によって、病院と区別
して規定されている診療所の別称。診療所
委員会 いんかい 広義には複数の委員をも
って構成される合議制の機関をいう。狭義に
は議院に設けられた議員の合議体としての常
任委員会・特別委員会をさす場合と、合議制
の行政機関としての行政委員会をさす場合と
がある。〔議会委員会〕本会議で審議すべき案件を予



飯山山 山腹にある会津白虎隊の墓

備的に調査・審議するために議院に設けられ
た議員の合議体である。議院のような多数の
議員から成る合議体においては、審議を能率
的にするため、あらかじめ少数の議員による
委員会、議案についての下調べをし、それ
が終わってから本会議にかけられるのが便利で
ある。このため、委員会制度は世界各国でも、
実際に政治上重大な役割を演じ、今日、議会
運営の重要な方法と考えられている。アメリ
カ合衆国などは、議会運営の重点が委員会に
ある委員会中心主義であるが、イギリスは本
会議に重点をおく本会議中心主義であり、委
員会の数はきわめて少ない。

日本では、第二次世界大戦前の帝国議会時
代にも多くの委員会があったが、実際は本会
議中心主義であった。しかし戦後は委員会中
心主義をとり、常任委員会と特別委員会(議
院がとくに必要と認めた案件、どの常任委員
会にも属さない案件を審査するため臨時に設
ける)をおいた(国会法四〇条ほか)。委員は
議院で選出、各会派の議員数に比例して割り
当てられるが、常任委員会が主として政府の
各省と並行して設けられているため、各省の
出先機関化する危険があると批判されてい
る。なお地方議会にも常任委員会・特別委員
会をおくことが認められている(地方自治
法)。国会法の定める常任委員会のはつぎのと
おりである。
内閣・地方行政・法務・外務・大蔵・文教・
社会労働・農林水産・商工・運輸・通信・建

設・予算・決算・議院運営・懲罰の六委員
会。

〔行政委員会〕永続的見地から周到な調査を基礎として、技術的・合理的な政策を樹立するため、または公正中立・能率的に運営し実施することの必要な行政の管理執行のために政党の影響がおよぶことをさけて、職務権限の行使につき、内閣からの独立性を保障されて設けられた合議制の行政機関をいう。ふつう特定の行政権を行使するだけでなく、準立法の権限・準司法的権限をもつ。日本にも古くから委員会と名のつく合議制の行政機関があったが、それらはほとんど諮問的な機能を果たす機関にすぎず、第二次世界大戦後の行政委員会とは区別される。現在の制度は、一九世紀末から二〇世紀にかけてアメリカ合衆国で発達した制度を模範としたものであり、国（国家行政組織法）・地方公共団体（地方自治法）を通じて多くの委員会が認められている。

〔国家行政組織における行政委員会〕
総理府―公正取引・国家公安・公害等調整の各委員会
法務省―司法試験管理・公安審査の各委員会
運輸省―船員労働委員会
労働省―中央労働・公共企業体等労働の各委員会

員会
〔地方行政組織における行政委員会〕
教育・選挙管理・人事または公平（以上普通地方公共団体）
公安・地方労働・収用・海区漁業調整・内水面漁場管理（以上都道府県）
農業・固定資産評価審査（以上市町村）の各委員会

委員会制度 いんかいせいど 関係者の衆知を集めてすぐれた結論に到達すること、ないし関係者相互間の意志疎通を円滑にして相互調整をはかることを目的として、組織内に設けられる会議体。力点のおき方によって合議・決定機関の委員会と、協議・協同の委員会に分かれる。
《森本三男》

committee system
イウォー Iwo ナイジェリア連邦共和国南西部の都市。人口二万四〇〇〇（七五）。オヨ州の主要都市で、州都イバダンの北東にある。

り、鉄道で結ばれている。ヨルバ族の町である。
イェ イェ 家屋、または家族集団の意。後者の場合について、現在とくに「いえ」という言葉が「家族」という概念と区別して用いられるのは、日本の伝統的な家族の特殊性を問題とするからである。
「いえ」は本来「いへ」であり、その語源については諸説があるが、電を意味する「へ」から起こったとする本居宣長の説は、古来、家の火を重んずる風習と関連して一つの有力な見解である。しかし大槻文彦説のように、「いへ」はすなわち「寝所」であるというようにある解もある。いずれにしても寝食をともにする生活の場を中心とした概念であり、現在一般に使用される家庭という言葉がこれに近い。これに対して漢字の「家」は、同じ屋根の下に人が集った姿を象ったものであるとする「康熙字典」の解釈などがあり、それは住居をともにするものの集まりとみる点において、現在の家族および世帯の概念に近い。しかし「いえ」という場合は家庭や家族や世帯などの概念と異なり、現実の生活共同体にとどまらず、世代を越えて永続する観念的な集団として考えられる。したがって家の成員が時として一人になり、また一時的に中断されることがあっても、持続的集団としての意味が失われぬ限り、家の存続は認められ、また血縁者以外にもその従属者を家の成員として認める場合がある。家は家長を中心として代継承される永続的な共同体ではあるが、その構成や形態は、歴史的・社会的、また経済的諸条件によつていちじるしく異なるものがあり、現実には生活をもとにする血縁的小集団から直系・傍系の広範囲にわたり、血縁者ならびに非血縁従属者を含む大家族や、本家・分家の関係にもある同族までを家という概念に含む場合がある。
「いえ」は日本古代の氏族制度時代から、氏族の上位集団として存在しており、律令時代における法制上の単位としての戸は、家をその構成分子としていたようである。家の制度が整い、またその内容の分化が明らかになるのは封建時代になってからである。近世にな

って分化した家に関する多くの言葉は、伝統的な家の性格を具体的に示すものである。
家の構成員としては、その長としての「家長」が、「家督」すなわち家長ならびにそれに伴う権利義務をもつて中心となり、「家族」すなわち家長の妻ならびに家長の親族がこれに従属するほか、封建的支配階級などにおいては、非血縁の従属者もまた「家臣」「家人」「家来」として、構成員に準ずる扱いを受ける場合もある。

家が世代を重ねて存続するところから、当然「家系」や「家譜」、すなわち家の血統や統柄を重視することとなり、また、家の社会的地位を示す「家格」や「家柄」を尊重し、「家名」すなわち家の名譽を重んずることとなる。

持続的集団としての家には、それぞれに伝承された生活様式が「家風」として尊重され、武家や商家の間では、家の幸福・発展のために、「家憲」「家法」というような家のおきてを定めるものがあり、とくに子孫に対する教訓として「家訓」を伝えるものがあった。また古くは公家や武家、明治以後は一般庶民の間にも、系譜上の標識をあらわす「家紋」が一般化されるに至った。

このような家を存続させるためには、収入や財産が保証されなければならぬところから、職業は「家業」または「家職」として代々世襲され、財産も「家産」「家財」「家宝」などの言葉が示すように、個人のものはなく、家のものとして、家長の管理下に置かれるのである。したがって芸能や特殊技術のようなものも、「家道」なり、「家伝」として特定の家にだけ伝承されることとなった。「同族団」もまた、このような家中心の考えから生まれたものであって、親子兄弟別居のあとでも、本家を中心とする家連合の形で互助組織を永続させることになったのである。

明治政府は諸政一新にもかかわらず、家族については、このような伝統を尊重し、とくに旧武士階級の家を範として、全国民のために家族秩序を規定した。明治前期における新旧思想の隆替とともに、家族制度の考え方も時代の変化があり、法典論争のような異見の対立もあったが、一八九六年（明治二九）

から九八年にわたって公布施行された民法は第二次世界大戦終局後の民主主義体制への転換に至るまで、終始、家の伝統の支柱となつた。したがって、戦後の新憲法ならびに新民法による家の制度の改廃は、一面において、近代化に伴う日本の家の必然的変容への障害をとり除くことになったが、同時に長い間の歴史的伝統に慣れた国民大衆の間に、一時的混乱や生活の不安を招くこともあった。家の伝統への郷愁は今なお決して失われていない。しかし戦後一〇年を経たところから、高度経済成長や各種社会的調整が進むにつれて、家庭生活の実態もまた夫婦生活を基礎とする核家族への急速な進展を示しつつあるのが現状である。①家族 ②家族制度 ③小山隆

有賀喜左衛門著『日本の家族』（文芸春秋）▽福尾猛市郎著『日本家族制度史』（六六・大八洲出版株式会社）▽川島武宜著『イデオロギーとしての家族制度』（元々・岩波書店）

家 いえ 島崎藤村の長編小説。上巻は一九一〇年（明治四三）一―五月『読売新聞』に連載、下巻は『犠牲』と題して翌年の一、四月『中央公論』に連載された。『春』（二六）につづく第二の自伝小説で、藤村の生家島崎家（小説では橋本家）という地方の旧家名門が、近代資本主義の波に洗われ没落していくが、二〇年の長い歴史と、その「家」からの脱出を願ひながらむなく破滅する人間たちの苦悩を描いている。その時「家」の意味は、個人を外部から規制する家父長制家族制度の束縛としてだけでなく、人間を内面からむしばむ「淫蕩な血の呪い」としてとらえられるが、これは封建的家の複雑な構造をその内部から描ききろうとした独自の手法とともに、この小説の大きな特色といえる。自然主義の文学観を如実に具現し、日本の近代文学を代表する傑作である。《三好行雄》

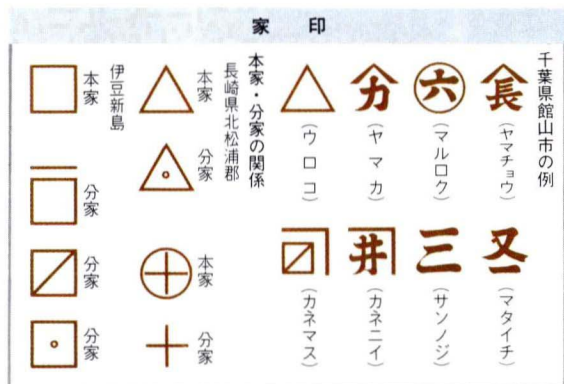
EHF イーエイチ extreme high frequency の略称。波長一―十センチメートルの電磁波。周波数でいうと三〇―三〇〇ヘルツから三〇〇―三〇〇〇ヘルツで、ミリ波ともよばれる。①ミリ波 ②ミリ波通信 ③周波数帯

波 〇ヘルツで、ミリ波ともよばれる。①ミリ波 ②ミリ波通信 ③周波数帯

波 〇ヘルツで、ミリ波ともよばれる。①ミリ波 ②ミリ波通信 ③周波数帯

波 〇ヘルツで、ミリ波ともよばれる。①ミリ波 ②ミリ波通信 ③周波数帯

波 〇ヘルツで、ミリ波ともよばれる。①ミリ波 ②ミリ波通信 ③周波数帯



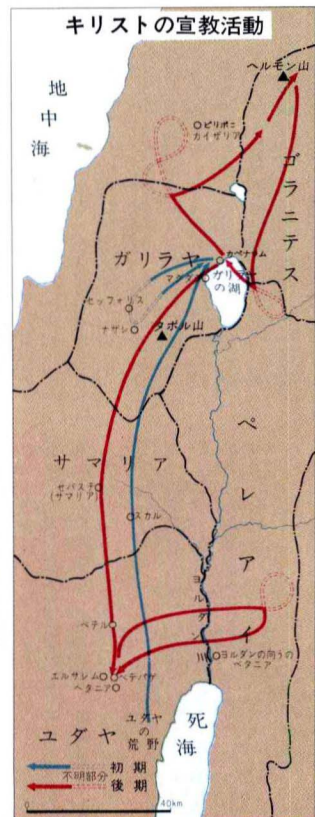
馬につける耳印なども、広義の家印の一つであるが、ふつういわれる家印は、日常生活の道具につける印をいう。曲線・円形・文字などを用いて、木印・耳印などに比べて複雑なものが多い。家印は同族間で同一系統のものをを用いることもある。本家の印に「とか」などわずかな変化をそえて、分家をあらわす。家印は元来は世帯主が変わっても、変わらないものであるが、時には当主の頭文字を使って、変えることもある。家印の発生は、戸外の共同労働や、同名の多い村落では、まぎれやすいので、各家の所有をあらわすためにつけた。はじめは鉋や斧で簡単な印をつけたものが、後には焼判を用いるようになったもので、占有標の一つである。

イエシロアリ [家白蟻] *Coptotermes formosanus* シロアリ目・ミゾガシラシロアリ科の昆虫。日本では静岡県以南の沿海部に産し、台湾まで分布する。木造建築物に被害を与えることで有名。イエシロアリは「イエスキ」の名はヘブライ語で「神(ヤウエ)」は助け給う」を意味し、キリストは「油を注がれた者」すなわち「救世主」を意味する。「イエスキリスト」とはいかなる者か」という問い

は、イエス生誕以来、今日まで問われつづけている。キリスト教徒にとって、イエスは「生ける神の子」である。『聖書』のマタイ福音書(一六ノ一六)によれば、イエスは弟子たちにむかって、「あなたたちは、私を誰だと思ふか」と問うた。シモン・ペテロが「あなたはキリスト、生ける神のみ子です」と答えた。イエスは、「あなたは幸いな人だ。その啓示は、血肉からのものではなくて、天にまします私の父から出たのである」といったと述べられている。ヨハネ福音書にはその冒頭に次のように書かれてある。「はじめにみ言葉があった。み言葉は神とともにあった。み言葉は神であった。……み言葉は肉体となって、私たちのうちに住まわれた。私たちは、その栄光をみた。それはおん独子としておん父から受けられた栄光であって、彼は恩寵と真理にみちておられた。……律法はモーゼを通じて与えられたが、恩寵と真理とはイエスキリストによって私たちの上にきた。神を見た人は一人もいない。おん父のみことろにおいてなるおん独子の神が、これをお示しになった」とある。

〔イエスの生涯〕 イエスは前五年または前六年、母の処女マリアと養父の大工ヨゼフが戸籍調べのために上ったダビデの町ベツレヘムの厩の中で生まれた。イエス生誕の夜、天使が羊飼いたちの前に現われ、イエスの生誕を告げ、「いと高きところでは神に栄光、地上では、善意の人に平和」と神を賛美した(ルカ二ノ一四)。イエス生誕後、聖家族はヘロデ王の幼児殺害をのがれてエジプトに旅し、ヘロデの死後、ナザレに帰った。ナザレではイエスは「両親に順つて(ルカ二ノ五)生活を送っていたが、一二歳のとき、過越祭にあたって、毎年の習慣どおり両親に連れられてエルサレムに上ったイエスは、神殿で律法学者たちと議論した。学者たちはイエスの知恵と解答に驚いたが、彼を捜した両親に向はすだど知らなかったのです」と答えている(ルカ二ノ四八)。イエスは三〇歳のころ、いっゆる公生活を始めた。洗者ヨハネから洗礼を受けたイエスは、「霊によって荒野にみちびかれ(マタイ四ノ一)四〇日間の断食

をおこなった。悪魔はイエスを三度試みた。「石をパンにせよ」というところみる者に對して、「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出るすべての言葉によって生きる」と書かれてある」と答え、「神殿の頂上から下に身を投げよ、神の子なら救われる」という誘いに對して、「あなたの神なる主をこころみるな、としるべきである」と答え、「自分をひれ伏して拝めば地上の栄華と権力を約束しよう」という申し出に對しては「サタン、しりぞけ。あなたの神なる主を礼拝し、ただ神にだけ仕えなければならぬ」と書かれてある」といって、悪魔の誘惑をしりぞけた(マタイ四ノ一、ルカ四ノ八)。荒野滞在ののち、イエスは人々に神のゆるしと福音を告げる宣教活動を積極的にはじめた。マルコ・マタイ・ルカの福音書は、イエスの宣教活動に関する多くの同じ事実を物語っているが、イエスの足跡を正確に跡づけたら、彼の訪問した土地の順序を追うことは困難である。しかし、ヨハネ福音書によれば、荒野を出てしばらくベタニアに帰り、ここで最初の弟子を得て、彼らとガリラヤにおもむき、カナの婚姻において水をぶどう酒に変えた。公生活の最初の過越祭にあたって、エルサレムに巡礼し、そこで神殿内の商人たちを追ひ払った。イエスは過越祭の間エルサレムにとどまり、律法学者で衆議院の一人であったニコデモに、ある夜、自己を啓示し、天国にはある条件を示された。洗者ヨハネの入獄後ユダヤを去って、サマリアを通り、ガリラヤに向かう。途中サマリアのスカルのヤコボの井戸端でサマリアの女に、自分がメシアであることを示され、サマリアでも多くの信者がで

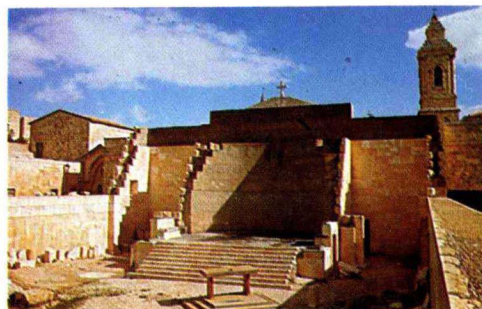


きた(ヨハネ四ノ四二)。

カペナウムに帰ったのちイエスは、その地の会堂において力強く説教し、新約の福音を伝えて、「人の子は安息日の主である」(ルカ六ノ五)ことを示された。このようにして、イエスは全ガリラヤをめぐる、その会堂で教え、み国の福音をのべ、民のなかのすべての病、すべてのわずらいをおなおしになった。その噂は全シリアにひろまり、いろいろな病氣と悩みに苦しめられている人、悪魔につかれた人、てんかんと中風の人をすべて彼のもとに連れてきたので、これをおなおしになった。ガリラヤ・デカポリス・エルサレム・ユダヤ、またヨルダンのかたの国から多くの人々がイエスに従ってきた(マタイ四ノ二三・二五)。イエスはこのころ有名な「山上の説教」をし、また十二使徒を選定して、ナザレでは歓迎されなかった。安息日に会堂でイエスは予言者イザヤの次の言葉を朗読した。「主の霊は私の上にある。なぜなら、私に油をそそいで聖別されたからである。霊は貧しい人により便りをもたらし、とらわれ人に解放を、めくらに見えろことを告げ、しいたげられた人に自由をかえし、主の恩寵の年を宣言するために、私をおつかわしになった」(ルカ四ノ一八・一九)。人々は大工ヨゼフの子イエスがイスラエル民族の救世主であることをいぶかしたが、イエスは、予言者エリヤが同胞のイスラエル民族よりも異邦の女を助けるためにつかわれたこと、予言者エリゼオもイスラエルの病人をおなおさなかったことを告げて、彼のいう救いがイスラエル民族の救いにとどまらず、全人類の救いであることを

注「原色聖書の歴史」創元社刊にもとづく

イエス=キリスト



(1) 十字架にかかる前、最後に祈った場所



(2) 毎週金曜日におこなわれる巡回礼拝



(3) ベツレムにある生誕教会内に厩跡がある



(4) イエスの墓がある聖墳墓教会の内部



(5) キリスト復活のとき、天使が降りたという石の台

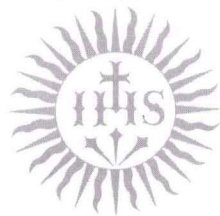
ほのめかした。人々は怒って、イエスを町から追いだした。ようやく彼の教えに対する反対勢力が大きくなるにいたるのである(ルカ四ノ二五ノ三〇)。洗者ヨハネがヘロデ王に殺されたことを知ったのち、イエスはガリラヤを立ち去って、ビリポリカイザリアに向かい、途上弟子たちに救世主としての自分の使命を語った。タボル山(おそらくはヘルモン山)においてイエスは変容し、弟子のうち、ペテロ・ヤコブ・ヨハネは輝く白光のなかでモーゼとエリヤとともにいるイエスをみた。すなわちイエスが苦難と死の道をえらぶことによって、新しい啓示の方法で、モーゼとエリヤの神、律法と予言者の神を真に示そうとしていることを弟子たちは悟ったのである。その後イエスはひそかにエルサレムに行き説教し、病をいやした。ユダヤ人たちは、イエスが何者かについて議論し合った。イエスはヨルダン川を渡ってペレア地方に行ったり、エフライムなどに行き、ベタニアでマリアの兄弟ラザロを死からよみがえらせた。イエスはマリアの姉妹マルタに向かっていった「私は復活であり、命である。私を信じる人は、死んでも生きる。生きて、私を信じる人は、永久に死なない」(ヨハネ一五ノ二五)。「イエスの死と復活」ラザロを復活させたイエスをみて、数多くのユダヤ人はイエスを信じた。パリサイ人はイエスを危険視し司祭長

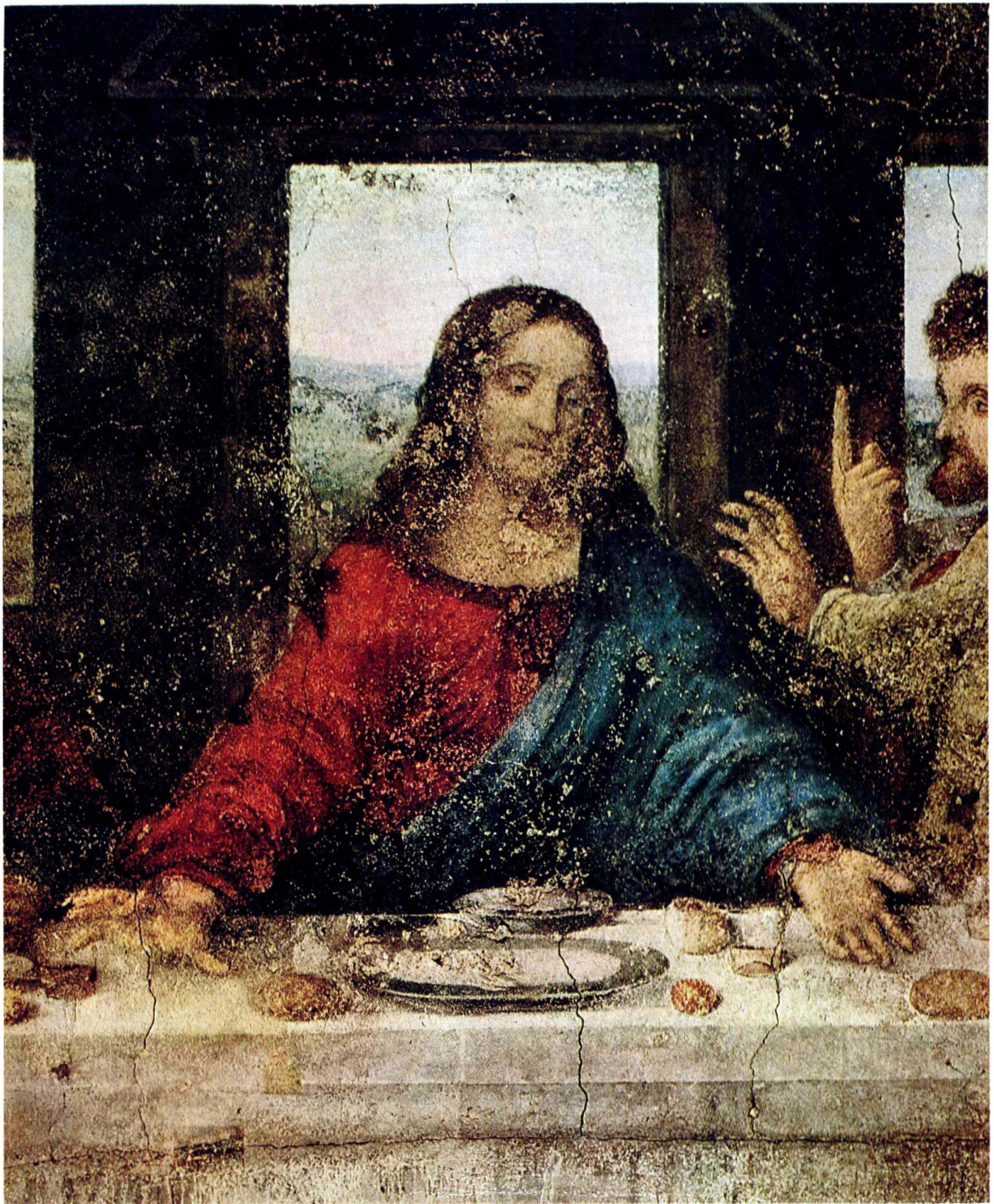
たちのパリサイ人たちは議を開いて、「どうしたらよからう。彼は多くの奇跡をおこなっているから、もしこのままですておいたら、人々はみな、彼を信じるようになるだろう。そしてローマ人がきて、私たちの聖地と人民を滅ぼすだろう」といった(ヨハネ一ノ四七、四八)。彼らがイエスを殺そうときめたのはこのときからであった(ヨハネ一ノ五三)。逾越祭の前夜木曜日の夜に、イエスは弟子たちと最後の晩餐をとり、その夜はゲッセマネの園で祈った。ゲッセマネで捕われたイエスは、ローマの総督ポンシオ・ピラトの前で、十字架につけることを宣告され、翌朝十字架を背負い、いばらの冠をかぶって、ゴルゴダの丘に歩かされ、そこで十字架につけられ死んだ。日曜日の朝イエスの葬られた墓は空になっていた。イエスは復活し、マグダラのマリアのほか、弟子たちは、その後各所で復活したイエスに会った。福音書はその事実を告げている。そしてオリブ山で昇天した。→キリスト教

約したが、まだ修道会の組織はとらなかった。そしてイタリアで民衆に説教しながら、聖地渡航の機会を待ったが、政治情勢のため渡航不可能となったので、かねてからの打合せのとおり教皇のもとに行き、宣教のために教皇がいちばんよいと思われるところに派遣されるように願った。一方、同志の間によりやく新修道会結成の議が進み、会則の大綱がつくられ、教皇の認可をえて、一五四〇年正式に修道会として発足した。

【特徴】イエズス会はそれまでの修道会と異なった生活様式を取り入れ、近世修道会の先駆をなした。修道服・共誦聖務日課など中世の修道生活の主要なものを廃止し、時代の要求と布教のために、より適した生活様式を採用した。イエズス会の根本精神はイグナチオの書いた『靈操』に結晶している。この会に入会したものは二年間の修練期を経なければならぬが、その期間中のもっともたいせつな修行は、『靈操』に従って一か月の黙想をすることである。それにより会員はすべてのことを「より大いなる神の栄光のために」Ad maiorem Dei gloriam (イグナチオの標語)なすように修練する。イエズス会は従順の徳をもっともたいせつにし、院長・管区長・総会長をキリストの代理人とみ、その命令に従うことを特徴とする。ことに教皇に対する従順の特別誓願を立て、教皇の特別使命にいつ

イエズス会の紋章





レオナルド＝ダ＝ビンチ<最後の晩餐>(1495～97年) 「夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食事の席につかれた。そして、一同が食事をしているとき言われた、『特にあなたがたに言うておくが、あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ろうとしている』……」(マタイ伝26の20～21)。運命を予感して静かにあきらめるキリストの顔。ミラノ サンタ＝マリア＝デレ＝グラチエ聖堂の修道院食堂の壁画(テンペラと油彩)部分



上：フラ＝アンジェリコとフィリッポ＝リッピ＜三王礼拝＞(1445年ごろ)「彼らは母マリアのそばに
いる幼な子に会い、ひれ伏しておがみ、宝の箱を
あけて、黄金・乳香・没薬などの贈り物をささげ
た」(マタイ伝2の11). 直径137.2cm ワシントン
ナショナル＝ギャラリー

左：マニヤスコ＜受洗＞部分(1730年ごろ)「そ
のころ、イエスはガリラヤのナザレから出てきて、
ヨルダン川でヨハネから洗礼をお受けになった。
そして、水の中から上がられるとすぐ、天が裂け
て、聖霊がハトのように自分にとってくるのを、
ごらんになった。すると天から声があった、『あな
たはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者で
ある』」(マルコ伝1の9～11). ワシントン ナシ
ョナル＝ギャラリー



右：ティントレット＜ガリラ
ヤ湖のキリスト＞(1560年ご
ろ)「そののち、イエスはテ
ベリヤの海で、ご自身また弟
子たちにあらわされた。……
夜が明けたころ、イエスが岸
に立っておられた。しかし弟
子たちはそれがイエスだとは
知らなかった。……」(ヨハネ
伝21の1, 4). 117×168.5cm
ワシントン ナショナル＝ギ
ャラリー